

芸術科 音楽 音楽 I
混声四部合唱「群青」

今年度の音楽 I では、「群青」を混声四部で合唱し、講演会「いのちの授業」にて学年の前で披露した。

この曲は、東日本大震災で被災した福島県南相馬市立小高中学校の生徒と音楽教諭が被災の思いを綴って作られた曲である。

授業では、この曲が生まれた背景を理解したうえで、どう歌うべきか、どう歌えばこの曲に込められた思いを伝えることができるかを生徒自身で考え、表現を工夫した。練習はソプラノ・アルト・テノール・バスの 4 つのパートに分かれ、各パートのパートリーダーを中心に取り組んだ。例えば、自分たちの合唱を録音し、パートごとに聴き改善点を話したり、歌詞の中で好きなところを伝え合い、どう歌うべきか話したりした。練習を重ねるにつれ、美しいハーモニーとなり、より思いの伝わる歌へと変わっていった。

講演会「いのちの授業」では、実際に東北で震災を経験した本校教諭が実体験をもとに講演をし、生徒とともに命を守る行動について考えた。講師の実体験等を聞くことでさらに震災への理解が深まり、被災した方々の思いをより深く想像することができたことが「群青」の合唱からひしひしと伝わってきた。

これらの活動を通じ、震災への理解が深めると同時に、曲の思いを理解して表現する力が身についたことを合唱から感じ取ることができた。



～授業での生徒の意見～

Q1 曲が生まれた背景を知り、この曲にどのような思いが込められていると感じましたか？

- ・中学の卒業式でも歌ったから歌の背景とかも知っていたけど、改めて考えると自分の同級生が急に居なくなつてその状況で歌うことが凄い、しんどいんだろうなって思うし、その上で考えられたこの曲は当時の人達の心に刺さったのかなって思った。これから同級生の分も生きるとか、ありきたりな言葉だけどそういう気持ちを本気で思うような曲だと思う。
- ・1番の歌詞は思い出を歌っていて2番の歌詞はまたいつか会えるよって意味が含まれていると思いました。いつか会えるって信じているって思いが伝わってきました。
- ・被災してしまい、自分たちが住んでいた街の景色が変わってしまったことを目の当たりにして、絶望するのではなくて頑張って前に進もうとしている気持ち
- ・震災を受けた悲しみではなく、これからを大切にして生きようとする思いと、またいつあえるか分からないけどまたこの生まれ育った街に集まって思い出を語ろうという絆を感じさせるような、約束の意味をこめた歌詞だった。当たり前がほんとは当たり前じゃない、なくなるものは急になくなってしまうこともあるということを教えてくれる曲もある。
- ・震災で離れ離れになった人たちも同じ空の下で暮らしているからいつかは会えるという思い

⇒離ればなれになつてもこの空はつながつてると希望を持ち、希望を持って前に進もうとしている

Q2 特に印象に残った歌詞を教えてください。

- ・「またね」と手を振るけど明日も会えるのかな
- ・あたりまえが幸せと知った
- ・また会おう群青の町で
- ・3月の風に吹かれ君を今でも思う
- ・遠ざかる君の笑顔今でも忘れない

Q3 曲に込められた思いを表現するために、具体的にどのように気に気をつけて歌いますか？

- ・歌詞の意味を理解して強弱をつける

- ・サビに近くなれば歌声を力強く歌う。最初の方と最後の方はゆっくり弱く歌う。語尾を伸ばす。
- ・pは思い出を語ったりする気持ち。f、ffは前向きな気持ち
- ・歌詞が聞き取れるようにひとことひとことをはっきりと発音する
- ・クレッセンドがあるところは力強くではなく響きを意識して歌う
- ・強弱記号は同じでも気持ちを読み取り強弱を考えるのもあり（全体で揃えるなら）
- ・当時の人々の気持ちを考えながら歌う
- ・気持ちを揃えるという面で入るタイミングを揃える
- ・あまり歌詞に暗いワードがないので明るい気持ちで歌うこと

⇒歌詞から当時の人たちの心情を想像し、思いを表現できるよう強弱や歌い方を工夫する

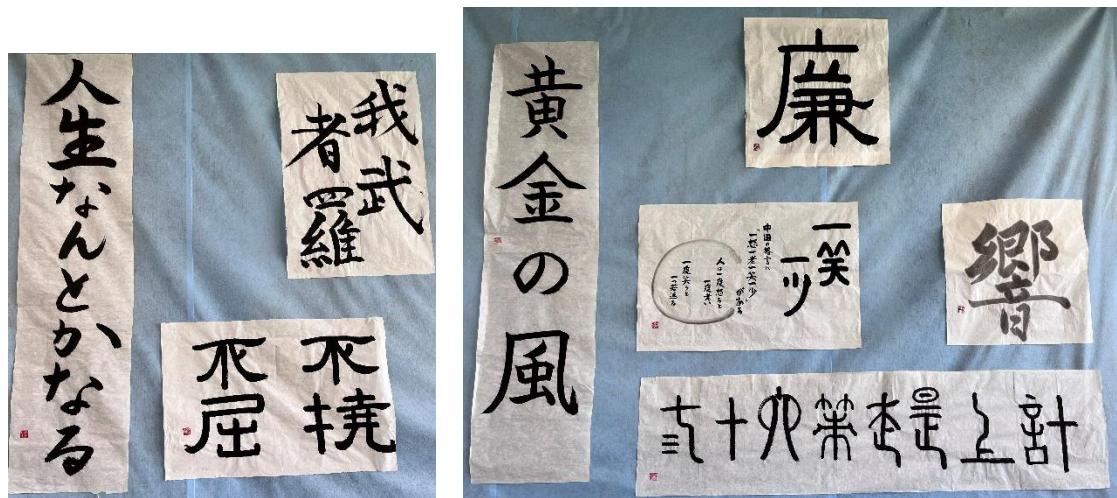
芸術科 美術 美術 I

「ベネチアンマスク」

紙で作られた土台からモデリング・着彩・デコレーションをおこない、ベネチアでのカーニバルのイメージに合った作品になるよう創意工夫した。



芸術科 書道 書道III
「好きを集めて」
好きな言葉を言葉にあった書体で表現した。



書道II
「和歌」
仮名文字で和歌の散らし書きをした。その後、好きな葉を選び、好きな色、レイアウトで染め紙をした。

